

令和7年度 学校評価書

幼稚園名： 焼津市立静浜幼稚園下藤分園

幼稚園においては学校教育法及び学校教育法施行規則により学校運営の状況について評価を行い、その結果を公表することが義務づけられています。つきましては、本年度実施した保護者アンケート及び教諭自己評価をもとに作成した学校評価書を公表します。

＜評価方法＞

- ・下記項目による保護者アンケート及び教諭自己評価を実施し、回答を点数化したのち、その平均点により総合評価を判定しました。
※点数は左記のとおり＜A…そう思う（4点）／B…どちらかといえばそう思う（3点）／C…どちらかといえばそう思わない（2点）／D…そう思わない（1点）＞
- ・項目1～20は保護者及び教諭が、21～45は教諭のみが回答しました。

No.	項目	平均点
保護者・教諭 同一項目	1 幼稚園に通うことを楽しみにしている。	3.7 /4
	2 安心して自分の思いを出し、元気に遊んでいる。	
	3 友達と一緒に遊び、友達と共に過ごすことを楽しんでいる。	
	4 遊びや集団生活に必要な『きまり』があることを知り、守ろうとしている。	
	5 様々な物事に興味、関心を示し、知的好奇心、思考力、感動する心が育ってきている。	
	6 自ら、好きな遊びを見つけて遊んでいる。	
	7 思いやりの気持ちや我慢する気持ちが育ってきている。	
	8 家族や幼稚園職員に挨拶をしている。	
	9 体を動かすことが好きになり、体力がついてきている。	
	10 園目標「心も身体も元気な子」に近づいてきている。	
応保に護つ者へへの対	11 幼稚園は子どもの成長の状況を保護者に伝えている。	3.9 /4
	12 幼稚園は保護者が子どもの成長に気づくための機会（参観日等）を作っている。	
	13 幼稚園は子育ての悩みや相談に、丁寧に対応している。	
	14 幼稚園は保護者同士が親しく交流できる場となっている。	
に安つ全い対策	15 幼稚園は保育室、遊戯室、園庭等において園児が安全に過ごせるようにしている。	3.8 /4
	16 幼稚園は安全対策について園児及び保護者に知らせている。	
	17 幼稚園は地震や火災等の災害時の対応を明確にし、訓練等により園児が安全に避難できるようにしている。	
教諭項目	18 子ども一人一人の人権を尊重し、それぞれの長所を把握している。	3.8 /4
	19 教育要領に基づき子どもを保育し、適当な環境を与え、心身の発達を助長するよう努めている。	
	20 子どもの個々の発達段階に応じて、基本的な生活習慣を定着させるよう努めている。	
	21 保育の考え方について保護者と相違があった場合、その保護者の状況や考え方を受けとめたくうえで説明するよう努めている。	
	22 個々の家庭環境が違うことを考慮したうえで、その子どもに適切な保育を考え、行っている。	
	23 幼稚園の教育は子どもの生涯にわたる人格形成の基礎を培う大切な役割を担っていることを認識している。	
	24 子どもの状況に合わせ、人的・物的な工夫をもって環境の構成を行っている。	
	25 子どもが思い切り遊ぶことができるように、子どもと一緒に体を動かしている。	
	26 一人一人の子どもに目を配っていたかを振り返り、自身の保育の課題を見つけている。	
	27 子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう、子どもとの信頼関係を築く努力をしている。	
	28 時節に合った掲示物やコーナーによる室内環境作りに努めている。	
	29 子どもが快適に過ごせるよう保育室内を清潔に保っている。	
	30 子どもが自発的に保育室内の環境を整える（遊び用具や掃除用具の片付け等）ことを促す工夫をしている。	
	31 時間や提出物の期限を守っている。	
32 明日の保育に向け環境、教材等の用意をしている。		
環指助導に計つ画いて週案、幼児理解、環境	33 幼稚園教育要領及び自園教育課程を基に、実態に合わせた指導計画を作成している。	3.8 /4
	34 子ども一人一人の実態（発達の状況や興味の対象等）を把握したうえで指導計画、週案を作成している。	
	35 子どもの意欲を誘うよう十分工夫した環境構成がされた週案を作成している。	
	36 支援を要する子どもに対し、その子どもに適した環境を準備し、具体的な対応をしている。	
	37 補助教諭がいる場合、両者の役割や子どもへの援助の方法等をよく話し合い、計画を立てて保育を進めている。	
	38 指導計画、週案と実際の子どもの状況、興味、関心が合っているか、という観点で自身の保育を評価している。	
	39 『園の教育理念、方針、目標』『自身の指導計画・週案の内容やねらい』を保護者が理解できるように説明することができる。	
	40 日々の保育が適切であったか判断し、適切でなかったと思われる点については、改善に向けた保育を計画し、実践している。	
	41 園長及び副園長・主任教諭は自身の立場を自覚し、他の職員の手本となるよう努めている。	
	42 園長及び副園長・主任教諭は園の運営についてお互いによく協力し、行っている。	

総合平均点数	総合評価（評価項目の達成及び取組状況）
4～3.1	A…十分達成されている
3～2.1	B…達成されている
2～1.1	C…取り組まれているが、成果が十分でない
1～0	D…取組が不十分である

総合評価	総合平均点数
A	3.8 /4

<本年度の幼稚園運営の振り返り>

・総合評価を受けての所感

子供たちは、一人として同じ子はいないため、どの子も安心して園生活が送れるようにありのままの子供の姿に寄り添い、必要な環境を設定していくことで、人と人の繋がりや物（環境）との繋がり、遊びの繋がり、明日への繋がりをもつことが大切ではないかと職員で話し合い『人・物・ことと繋がる保育』を進めてきました。今年度は、3学年合同クラスで生活をしていく中で、お互いに刺激し合い成長していく姿が見られています。そのことが、好きな遊びを見つけることや元気に遊ぶことに繋がっていると感じてくれた方が多かったのではないかと考えております。また、合同クラスということで、不安に思った保護者様もいらっしたと思います。職員が合同クラスで生活している子供たちの姿をドキュメンテーションで伝えたり、登降園時に言葉で伝えたり、折に触れてお子様の成長について一緒に話したりしたことでも保護者様と信頼関係を築けたのではないかと感じております。子供たちが日々の中で、安心して生活できるのも保護者の皆様の御理解と御協力のおかげであると感謝しております。

・本年度努力した点、改善した点

今年度は、園児16名だからこそできる保育を目指し、園側から地域の方と繋がっていくことを大切にしてきました。園と繋がりのある方々にお声を掛けさせていただき『みんなの絵本童話館』を行い、職員以外の方々に絵本の読み聞かせをしていただきました。また、地域の方々に野菜や果物の育て方を教えていただいたり、ミュージックパネルシアターを見せていただいたりしました。その中で、地域の方々から子供たちの思いに寄り添った声を掛けていただいたり、褒めていただいたりしたことが、子供たちの自信につながり次への意欲へと繋がっていききました。子供たちから「やってみようかな」「よし！やってみよう」という声も多く聞かれるようになり、生き生きと生活している姿が見られています。今後も、いろいろな繋がりを大切にしたい保育をしていきたいと思っております。

・苦心した点、反省すべき点

外国につながる子の保護者様への対応について、その都度、わかりやすいように説明をしたり、必要な時は通訳の方に来園していただいたりしましたが、伝えきれない部分も多くありました。すべてを伝えることは難しくても日々のコミュニケーションを大切にしていきながら、話しやすい雰囲気を作り、意思疎通が少しでもできるように園側も努力していきたいと思っております。

<来年度の幼稚園運営について（方針、重点内容、改善策等）>

本園は、4月から休園になることが決定しております。日々、園生活を送っている中で『静浜幼稚園下藤分園』は地域の皆様、園に関わってくださっているすべての皆様に支えられ今日があることを痛感しております。今も昔も子供たちの純粋な眼差しや素直な思いは変わっておらず、保育室や園庭では笑い声が響き、満面の笑みを浮かべながら異年齢が関わり合っていて過ごしています。そのような子供たちをいろいろな方々が温かく見守ってくださっていることで下藤分園には、いつも内側からも外側からもじんわりと温かい空気が流れていると感じております。今まで下藤分園を温かく見守ってくださり本当にありがとうございました。